

## トリエステ (Trieste)

トリエステの街は、須賀敦子の「トリエステの坂道」でその名を聞くまで知りませんでした。須賀敦子という名前さえも、知ったのはミラノに赴任してきてからです。勿論、「トリエステの坂道」も読んだことはありません。但し、インターネットで調べると、須賀敦子の美しい文章は読む人誰も（女性が圧倒的に多いようですが）を魅了しているのです。須賀敦子のエッセイは「トリエステの坂道」を含めて、ほとんどの人が絶賛しています。この本の中で、須賀敦子は、トリエステを、たった4年の結婚生活後に亡くなった夫のペッピーノが愛した詩人ウンベルト・サバの街として、“サバは夫が最も愛した詩人であり、トリエステはいつか夫とともに訪れるはずの町だった”と言っています。この短い文章（やはり美しい文章なのですね）だけで、トリエステに興味を持ちました。

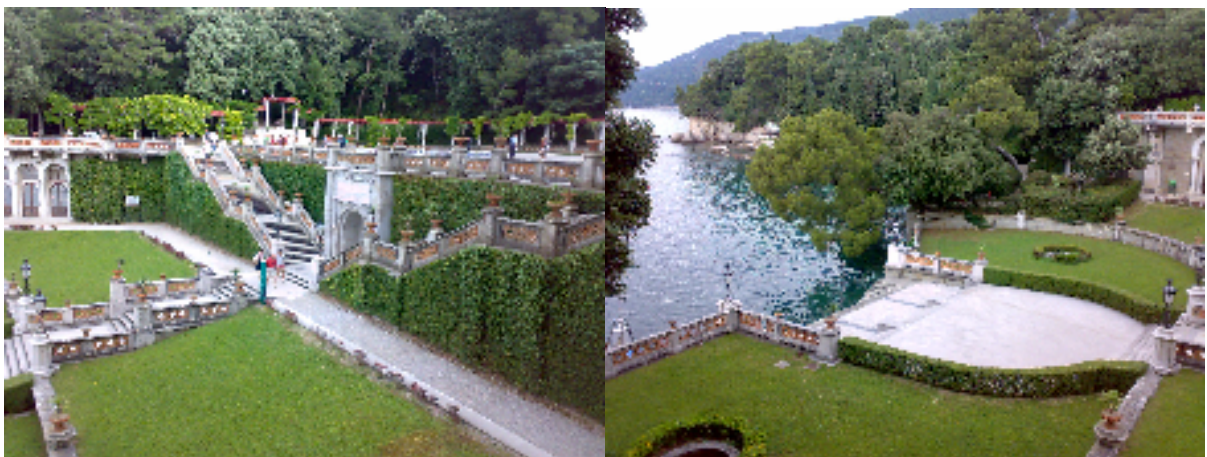
トリエステを更に調べて行くと、オーストリアのエリザベート皇后もこの街に深くかかわっていたことが解りました。エリザベートはフランツ・ヨーゼフ1世の皇后でミュージカルにもなっている美しい人です。このエリザベートが度々訪れているミラマーレ城がトリエステから6キロのところにあります。それに加えて、ローマ遺跡・古い教会に、ウィーンを髣髴とさせるオーストリア文化が残る街並は、ついに行きたい気持ちに火をつけてしまいました。

トリエステは古代ローマ遺跡があることでもわかるように古代ローマ以前からの古い街です。ローマ、アクィレイア、ヴェネツィアの支配の後に400年以上の間オーストリア領となっていました。従って、この街は、今でもイタリアよりもオーストリアの文化が色濃く残っていますので、この街に関しては古い時代の歴史より近世の歴史に興味を沸いてきます。トリエステも先日訪れたボルツァーノと同じように第1次世界大戦まではオーストリア領だったのです。但し、トリエステはもともとイタリア語圏でオーストリアの統治時代でもイタリア語を使っていたので、その点がボルツァーノとは違います。14世紀後半から200年にも及ぶ戦いの末、オーストリアーハンガリー帝国はヴェネツィアからこの地を奪い、18世紀には帝国の自由港として繁栄していました。近世になって、オーストリアのハプスブルグ家が、北イタリア全体をロンバルド＝ヴェネト王国として、ハプスブルグ家の総督がミラノに入り統治していました。フランツ・ヨーゼフ1世（その皇后がエリザベートです）の仲の良い弟である後のメキシコ皇帝マキシミリアン1世が、1857年にロンバルド＝ヴェネト王国の総督となり、トリエステにミラマーレ城を築きミラノからトリエステに移り居を構えたのです。後にマキシミリアン1世はナポレオン3世の命によりメキシコ皇帝となりましたが、最後にナポレオン3世に見捨てられ、1868年に銃殺刑になっています。マキシミリアン1世の死後、1869年から1896年の間に、あのエリザベートが少なくとも14回はこのミラマーレ城に来ていたと言われています。このように、トリエステは、ハプスブルグ家及びエリザベートのゆかりの街でもあるのです。

前置きが長くなりましたが、ヴェローナからトリエステに入ったのは、予定より40分ほど遅れた昼の12時直前でした。到着して直ぐに、トリエステ駅前からのバスに乗ってミラマーレ城に行くことにしました。駅前からのバスは、たくさんの人が海水浴・日光浴している海岸線を抜けて、岬の小山を越え、トリエステの北6キロにある港のグリニャーノまで行きます。グリニャーノのヨットハーバー前のカフェで、揚げたてのイカのフリットとパスタで昼食をとってから、ミラマーレ自然公園に入り10分も歩くと真っ白なミラマーレ城が見えてきます。海に突き出した19世紀の豪華で美しいお城は、今まで見てきた岩で建造された丘の上のイタリアのお城とは全く違います。このお城は戦いのために造られたのではなく、ヨーロッパ名門貴族の贅沢な住居としての城なのです。



ミラマーレ城は、海に突き出た岬の先端にあり、全ての部屋から海を望むことができます。城の周りのきれいに区画された庭園は、ウィーンやパリの宮殿の庭のようです。エリザベートが度々訪れた理由が良くわかります。何とも贅沢な別荘です。



城の中は、残念ながら撮影禁止です。従って、ブックショップで写真集を購入してしまいました。この城は、あくまでも別宅なのでしょう。部屋の一つ一つは小さくまとまっていますが、その豪華さは、ウィーンやパリの宮殿と遜色ありません。もう全てを言葉では伝えることは不可能です。その中で、やはり、印象に残るのは、2つあったエリザベートの肖像画です。本当に美しい人です。特に、彼女の目が印象的で、どちらの絵も同じ目をしています。また、この城の城主だったマキシミアン 1

世の夫人であるシャルロッテがエリザベートを、城に迎えている場面の大きな絵画が、如何にも、その当時の貴族の生活を表現していました。何度も溜息が出てしまいました。

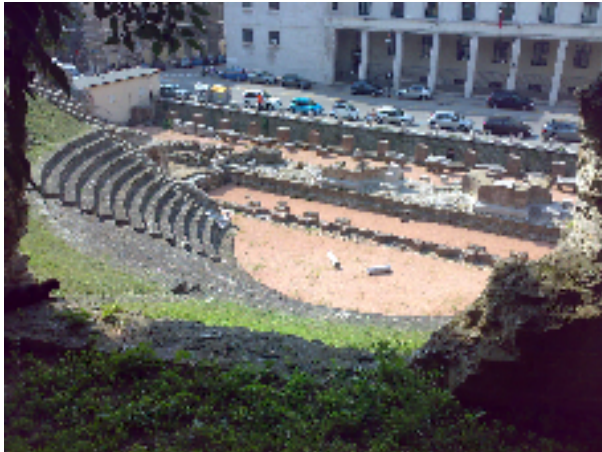


かなり、後ろ髪を引かれながらも、バスでトリエステの街に戻りました。トリエステの駅前に戻ると、駅前の広場にまた、エリザベートの銅像がありました。この銅像の目も、肖像画と同じ美しい目をしています。トリエステはエリザベートの街なのですね。



ホテルに荷物を預けると、今度はトリエステの街歩きです。トリエステの街はとにかくきれいな街です。そのきれいさは他のイタリアの街を完全に圧倒しています。特に、先日行ったシチリアのパレルモに比べると雲泥の差です。同じイタリアとは思えません。歩道には犬の糞などほとんどありませんし、どこに行っても、磨いたようなきれいなトイレがあります。従って、イタリア旅行の日本人がこの街に着いたらほっとすると思います。街歩きの基点は、イタリアで一番大きな広場である港に面したイタリア統一広場です。この広場は3方がヨーロッパスタイル（イタリアスタイルではない）の白くてきれいな宮殿で囲まれています。トリエステの宮殿は、どちらかというトリノの宮殿に近いのかもしれませんが、とにかく、広場も海も宮殿も洗練された美しさです。

ここは、夜の景色がきれいとのことなので、夜にもう一度ここに戻ることにして、丘の上のサン・ジュスト城を目指しました。イタリア統一広場から2,3分のところに古代ローマ劇場の遺跡があります。それほど大きくはありませんが、保存状態が良いローマ遺跡です。ここから、丘を登り始めます。要するに、ここから、須賀敦子の「トリエステの坂道」となるのです。



「トリエステの坂道」を登ること 10 分足らず（でも疲れます）で、サン・ジュスト城に到着します。城の前には、ローマ時代のバシリカの柱が遺跡として残っています。その横には、見事な大聖堂（サン・ジュスト大聖堂）があります。



サン・ジュスト城は 15 世紀後半にヴェネツィアによって建てられた城です。勿論、オーストリアとの戦闘の最中に造られた城ですので、ミラマーレ城とは違い、岩で出来た頑固な城です。この城の中へは入場券（3.5 ユーロ）を購入します。中に入ると、城の中も見ることが出来ますが、城の上から素晴らしいトリエステの街を見ることが出来ます。トリエステの街はジェノヴァくらいの規模です。それに、港と街並み、その周りの山々の景色は、ジェノヴァとよく似ています。

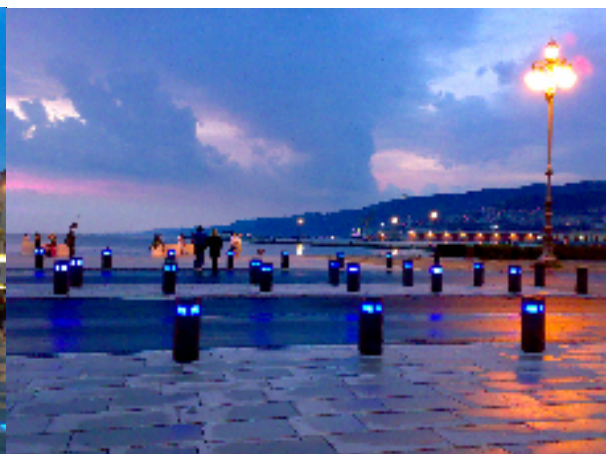
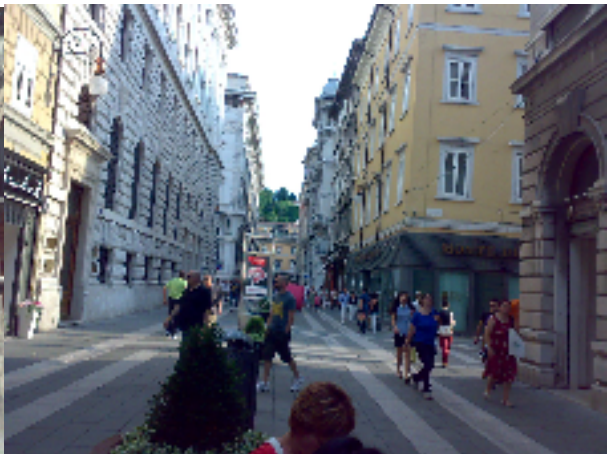


ローマ時代のバシリカの列柱の横を通って、サン・ジュスト大聖堂に入りました。サン・ジュスト大聖堂は、5～6世紀のローマ時代のバシリカ跡に、14世紀に建てられた大聖堂で、トリエステのシンボルとなっています。教会の3つの後陣には素晴らしいモザイクが描かれています。中心のモザイクは近代にかかれたものですが、右側の後陣は13世紀（キリストと聖人）で、左側は14世紀のもの（聖母と大天使）です。いずれも、非常に保存状態が良く、見る人を感動させてくれます。



丘から降りて、ホテルにチェックインした後、ホテルとイタリア統一広場の間に位置する大運河に並ぶカフェやレストランに誘惑されながら近くにあるウンベルト・サバ書店を覗きました。この本屋には古い本が並べられていて、まるで、ハリーポッターの世界に紛れ込んだような感じです。店のおじ

さんが“プレーゴ”と言ってくれたのですが、残念ながら、内容がわかるような本は全くないので、早々に出てきたのですが、周りの街から隔離されたようなこの本屋さんには印象的でした。最終的に調べておいたスローフードの店に行き夕食となりました。しかし、残念ながら、最近、美味しいものばかり食べて舌が肥えているせいか、ヴェローナのカタツムリマークの店に比べると、味はイマイチでした。それでも、夕食の最中にちょうど夕立があり、気温も下がり気持ちの良いひと時を過ごせたので満足です。夕食後は、暗くなり始めたイタリア統一広場に散策です。広場はライトアップされた宮殿と港、そして雨に濡れた石畳が最高の景色をプレゼントしてくれました。この日は、広場の宮殿と港の夜景に浸って、トリエステの夜が更けていくのを見ながら1日を終わりました。



ヴェローナからヴェネツィア・メストレまでユーロスター（18.5ユーロ）に乗り、ヴェネツィア・

メストレ駅からレジョナーレ (9.55 ユーロ) でトリエステに行く予定でしたが、メストレ駅で、久しぶりにイタリア国鉄の洗礼にあってしまいました。なんと、乗っていた車両のドアが開かないのです。結局、この車両に乗っていた7, 8人がメストレ駅で降りることができずに、ヴェネツィア・サントルチア駅まで連れて行かれてしまいました。しかし、運の良いことに、40分後に、サントルチア駅からトリエステ行き列車があったので、30分間、サントルチア駅周辺を観光して、この列車に乗り込み、40分遅れでトリエステに到着しました。勿論、交渉の結果、メストレ駅とサントルチア駅間の料金は無料にしてくれましたので、思いがけないヴェネツィア観光となったわけです。



ミラノ中央駅からトリエステまでは、朝と夕の1日2本、直通のユーロスター (片道44ユーロで4時間半) があり、トリエステだけ行くならこのユーロスターが非常に便利です。

トリエステからミラマーレ城へのバスは、トリエステ中央駅を出て左手の大通り (道の向こう側) に停留所があります。Trieste Transporti Linea 36の路線バスで15-20分 (1.1ユーロ) です。但し、実際にはLinea 6 (Grignano行き) に乗りましたので、Linea 6でも行くようです。Grignano行きであることだけは確認してください。チケットは駅の売店で購入できます。終点のGrignanoまで行くのが一番簡単ですが、城まで公園の登り道を歩くこととなります。終点の手前 (2つの短いトンネルを過ぎたところ) の停留所で降りると、公園の高い位置の入り口 (2つのトンネルの間にある) から、城までは下り道となります。どちらからでも、城までは公園内を歩いて10分ほどかかります。

須賀敦子とエリザベートの街、トリエステは期待通りに素晴らしいところでした。日本に戻ったら、早速、須賀敦子のエッセイを読むことにします。